

3.これまでの主な取組

津波・防災まちづくり

いつ発生してもおかしくない巨大地震に備えるため、「命を守る対策」、「財産・生産活動を守る対策」、「被災後の生活支援対策」をそれぞれ早急に進めてきた。

命を守る対策

- ・ 防災情報の提供
- ・ 津波避難タワーの整備
- ・ 避難路の整備



財産・生産活動を守る対策

- ・ 防潮堤、堤防のかさ上げ
- ・ TOUKAI-0 の推進
- ・ 各家庭での安全対策

被災時の生活支援対策

- ・ 防災公園の整備
- ・ 防災備品の確保、備蓄
- ・ 仮設住宅用地の確保



津波避難タワー

津波浸水想定区域内人口約17,000人が5分以内に避難できるよう、町内各所に15基の津波避難タワーを早急に整備した。**一部は道路上に設置**し、通常時は横断歩道橋として活用している。

道路上の津波避難タワーの法的位置づけ

【町 道】

横断歩道橋と津波避難施設の兼用工作物 として町が設置

【県 道】

道路占用の許可を得て町が設置

POINT 1

横断歩道橋と津波避難施設の兼用工作物

通常時は横断歩道橋として利用でき、災害時は津波避難施設として利用する2つの目的を兼ね備えた施設

POINT 2

道路法施行令の一部改正（H25.4.1施行）

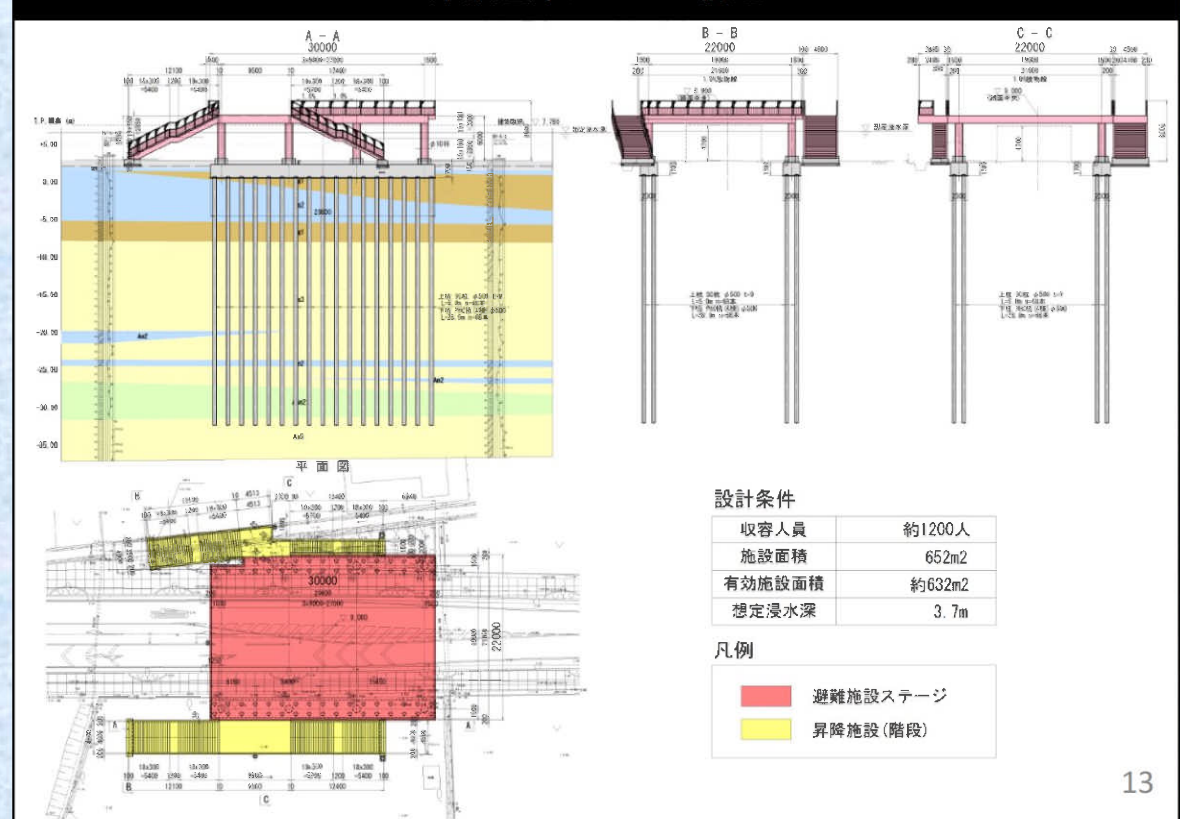
道路の占用許可物件として、新たに「津波避難施設」を追加

POINT 3

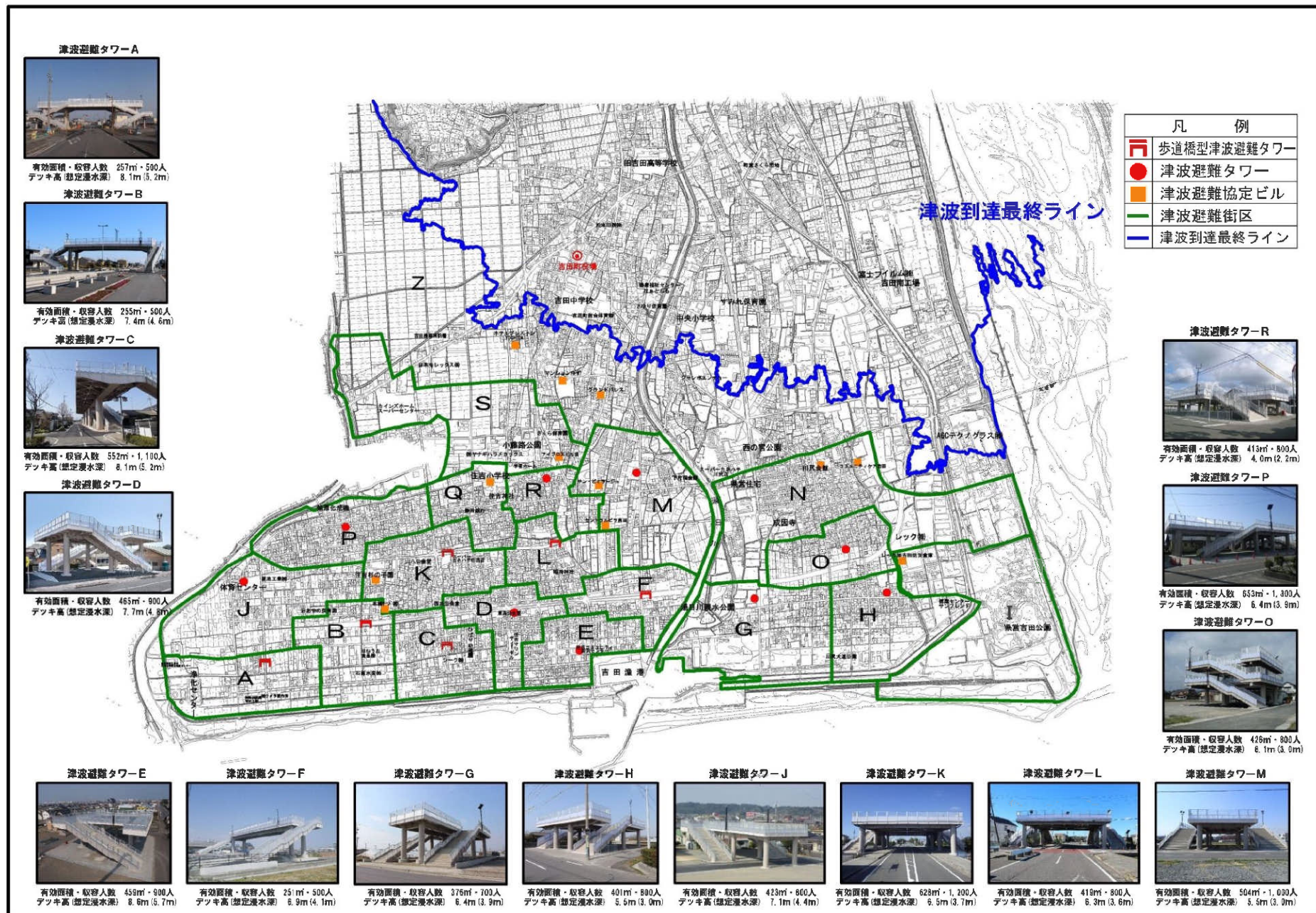
津波避難施設(道路上)設計技術検討委員会

平成24年7月30日に成立した委員会。道路上へのタワー設置にあたり、設計条件及び設計手法を検討。全3回の開催を経て「道路上に設置する津波避難タワーの標準仕様設計基準（案）」を策定

津波避難タワーの構造



津波避難タワー15基の位置図



R25.9.23

完成式 (一次工事)

平成25年9月末に、全国で初となる歩道橋型のタワー2基を含む3基が完成。太田国土交通相や川勝県知事など約100人が出席し、完成式典を開催。



津波避難タワー関連式典



完成式 (命を守る対策)

平成26年3月末に残る12基が完成し、タワー全15基の整備が完了。古谷防災相や川勝県知事など約100人が出席し、タワー下で完成式典を開催。

R26.3.30

～ “ふじのくに” のフロンティアを拓く取組～

防災減災

×

地域成長

×

多彩なライフスタイル

安全安心で魅力ある“ふじのくに”の実現へ向け、静岡県下全市町で実施中

第1期

2013

「ふじのくに防災減災・地域成長モデル」の**総合特区**に指定

災害に強い分散自立型の先導的モデル拠点の創出を目指すための取組として、吉田町では2区域が「ふじのくにフロンティア推進区域」に認定され、関連事業を展開。

実施事業

●物資供給拠点確保事業

●企業活動維持支援事業

第2期

2020

「富士山静岡空港周辺観光・産業交流推進エリア」が
「ふじのくにフロンティア推進エリア」に認定

吉田町、島田市、牧之原市の2市1町でエリアを形成。既存の拠点に加え新たな推進拠点区域を定め、市町の枠にとられない広域的な事業を展開。吉田町では2つの新拠点区域を設定。

新拠点区域

●東名吉田IC周辺バスターミナル推進拠点

●シーガーデン（川尻海岸）推進拠点

1 北オアシスパーク整備／周辺への商業施設誘致 (ふじのくにフロンティア推進区域)

防災公園として整備した北オアシスパークの周辺に商業施設を誘致。誘致企業とは、有事における物資供給に関する協力協定等を締結し、防災拠点機能を確保。

津波防災

- ・ 町の防災情報発信
- ・ 災害時の一時避難地、仮設住宅用地等として活用
- ・ 住民等の災害時の生活を支える生活物資を供給

賑わい

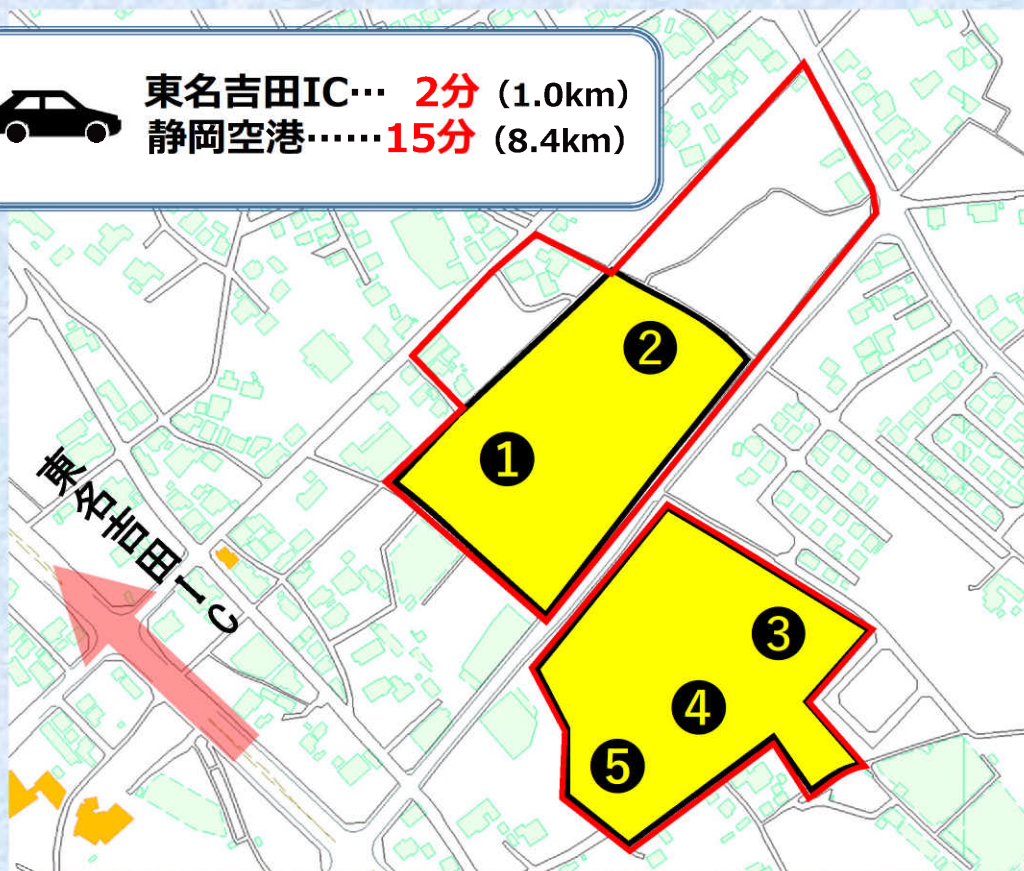
- ・ 町の魅力等の情報発信
- ・ 賑わい創出や地域活性化の拠点として活用
- ・ 商業施設の立地による平常時の賑わい創出



「物資供給拠点確保事業区域」における商業施設立地の進捗状況



東名吉田IC… **2分** (1.0km)
静岡空港…… **15分** (8.4km)



①北オアシスパーク
(防災公園)

供用開始 平成28年10月



②杏林堂薬局
(ドラッグストア)

OPEN 平成29年3月



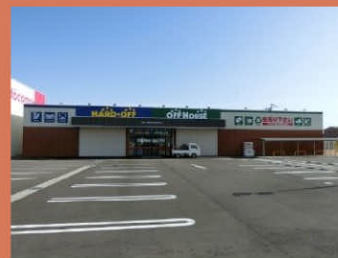
③ザ・ビッグ
(スーパーマーケット)

OPEN 平成28年4月



④ノジマ
(家電製品販売)

OPEN 平成28年4月



⑤ハードオフ・オフハウス
(リサイクルショップ)

OPEN 平成29年2月

② 企業移転・誘致のための土地確保 (ふじのくにフロンティア推進区域)

津波浸水想定区域から移転する企業の受け皿となる土地を確保し、生産活動継続を支援するとともに、立地企業から緑地等の提供を受け、応急仮設住宅用地を確保。

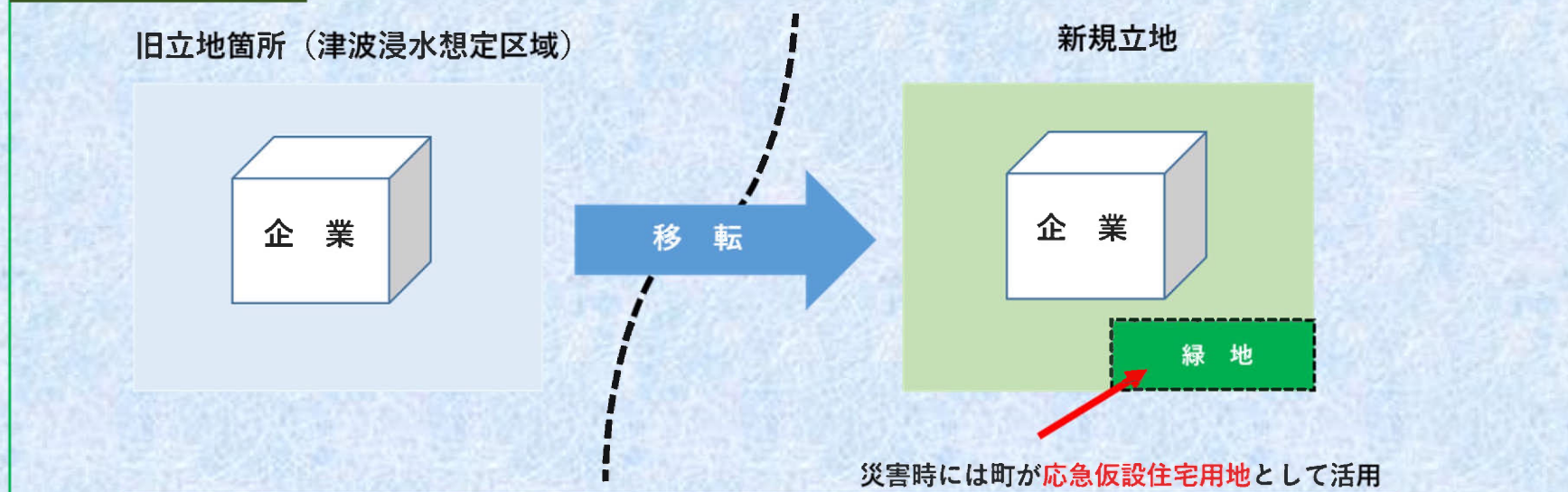
津波防災

- ・ 津波浸水想定区域から移転する企業の土地確保
- ・ 立地企業の緑地等を応急仮設住宅用地として活用

賑わい

- ・ 新たな雇用の場の創出
- ・ 地域経済の活性化

(イメージ図)



「企業活動維持支援事業区域」における企業立地の進捗状況



東名吉田IC… **6分** (3.0km)
静岡空港… **20分** (10.3km)

①(株)トライ産業



本 社 静岡市清水区

操業開始 令和2年3月

開発面積 約1.0㍿

マグロを主とした水産加工業

①

②

③

③タイセーサッシ工業(株)

本 社 吉田町

操業開始 令和元年10月

開発面積 約0.8㍿



スチールサッシ、スチールドア等、建築資材の製造業（増築）

②大長増田商店

本 社 吉田町

操業開始 令和2年6月

開発面積 約1.2㍿

マグロを主とした水産加工業

③

シーガーデン（多目的広場・防潮堤・県営吉田公園など）の整備 （ふじのくにフロンティア推進エリア：シーガーデン（川尻海岸）推進拠点）

1000年に一度の大津波を防ぐため、川尻海岸の防潮堤を海拔11.8mの高さまでかさ上げ。防潮堤天端を舗装し、平常時は県営吉田公園と多目的広場を結ぶ海浜回廊として活用。

津波防災

- ・ 海拔11.8mの高さの防潮堤整備で安全・安心を創出
- ・ 緊急支援物資搬出入のためのヘリポートを整備

賑わい

- ・ 多目的広場で水産振興イベント等を開催
- ・ 防潮堤を海浜回廊として活用
- ・ 県営吉田公園及び周辺で多様なレクリエーションやスポーツを満喫できる環境を創出



多目的広場及び周辺 （親水・交流ゾーン）



眺望や周辺環境を生かした各種イベントや親水体験等を楽しめる場を創出

川尻海岸防潮堤 （海辺のプロムナードゾーン）



防潮堤天端を海浜回廊として活用。富士山や駿河湾等の眺望を楽しみながら人々が行き交う憩いの場を創出

県営吉田公園・公園周辺 （レジャーとスポーツゾーン）



県営吉田公園の南側にアウトドア体験やスポーツ等を楽しむことができる場を創出

川尻海岸を活用したシーガーデン整備イメージ図

2024/12/9 撮影



2024/8/26 撮影



2022/4/22 撮影



■シーガーデン

- 防潮堤及び多目的広場の整備による安全安心の創出(L2津波に対応)
- 水産振興やイベント開催等による賑わいの創出

シーガーデン（川尻海岸）≫ 吉田漁港多目的広場

総面積：26,000m²（天端）
盛土量：198,600m³
海 抜：10.5m（海側11.8m）
延 長：東西約480m
南北約18～82m
法面勾配：1：2



【吉田漁港多目的広場】

多目的広場は、漁港環境整備施設用地内に位置しており、静岡県漁業基盤整備事業費補助金を活用して災害時にはヘリポートや緊急物資の一時保管場所等としても利用できるよう整備している。また、シーガーデンとしての連続性、利用者の利便性を確保するため、海側を11.8mの高さまで嵩上げした。

平常時には他の漁港施設と連動し、水産振興とイベント開催等による賑わい創出の場として利用できるよう、この広場と周辺を「親水・交流ゾーン」に位置付けている。今後、官民連携手法の取入れも視野に入れた整備を行い、広場全体の有効活用を図っていく見込みである。

シーガーデン（川尻海岸）≫川尻防潮堤（海浜回廊）

盛土量：241,700m³
延長：東西約1,500m
天端幅：6.8m(舗装幅5.0m)
法面勾配：1：2



【川尻防潮堤（海浜回廊）】

国・県・市町で構成される「駿河海岸整備検討会」の検討結果に基づき、それぞれの役割分担の下、L2津波に効果を発揮する防潮堤を整備した。

多目的広場と県営吉田公園を結ぶ防潮堤の天端は、人々が行き交う海浜回廊としての活用を見込み、5m幅をアスファルトで舗装。100m毎の距離標設置、天端両端への植栽等の環境整備を行い、駿河湾や富士山といった豊かな眺望を楽しみながらウォーキングやサイクリングを楽しむことができる環境を整えた。

シーガーデン（川尻海岸）≫河川防災ステーション・県営吉田公園

【水防センター】

建築様式：コンテナハウス

発電容量：太陽光9.0kWh

風力0.5kWh

計画決定区域：

31.5ha

S51.4.6県告第824号

県営吉田公園
(14.2ha)

県道第6号

河川防災ステーション

【河川防災ステーション】

備蓄土砂：16,320m³

備蓄ブロック：1,357個

【河川防災ステーション】

国の「大井川河川川尻地区防災ステーション」の整備に合わせ、町が水防活動や災害時の迅速な復旧活動を行う拠点として「水防センター」を整備することで「新たな安全」を創出するとともに、平常時には県営吉田公園と一体的にシーガーデンの賑わいづくりの拠点として活用。

【県営吉田公園及びその周辺】

計画決定区域内の未利用地を有効活用し、海浜回廊や多目的広場と連動し、様々なアクティビティ等を楽しむことができる環境を整備することにより賑わい創出を図る。



**R4.5.14
開催**



祝

**駿河海岸防潮堤(川尻工区)
大井川川尻地区河川防災ステーション**

完成式典

町・国土交通省合同の完成式典を開催し、安倍元総理、川勝知事、国土交通省関係者、自治会役員など約100人が出席。テープカットや小山城太鼓保存会による演奏等のほか、参加者による防潮堤天端へのシャリンバイ植樹を実施した。

